

科目名	保育内容演習（健康Ⅰ）			担当教員	酒井 俊郎	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2CCM502
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	大学附属幼稚園園長としての保育現場の経験を生かし、保育・教育における教員（保育者）の役割、とくに子どもの最善の利益につながる課題解決の方法、およびケガや事故等への対応や保護者への連絡、関係諸機関との連携等について講義する。					
到達目標及びテーマ	保育・幼児教育の職について、自覚と誇りを持ち、子どもを取り巻く環境に関心を持ち、自ら実践しようとする意欲を持つ。日々の実践のなかから自分自身で課題を見出し、子どもの最善の利益につながる課題解決の方法を考察することができる。					
授業の概要	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う「健康」の領域について学ぶ。まず、保育者等の愛情に支えられた安心・安全な環境のもとで乳幼児が心地良さを味わい、体を十分に動かして生活することが、健康な生活を送るための基礎作りになることを解説する。胎児・乳幼児の身体的な発育・発達を学び、次に基本的な運動能力の発達について理解し、さらに乳幼児の発育・発達に影響を及ぼす要因について学ぶ。「健康、安全などの生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと」をねらいとして、具体的に保育を展開するための内容理解を深められるように解説すると共に、グループワーク等を通して学んでいく。【デジタル技術利用 該当番号：⑧】					

授業計画	
第1回	領域「健康」のめざすもの（幼児の健康）
第2回	領域「健康」のねらいと内容（保育の中の健康づくり）
第3回	幼児の健康（子どもの健康と生活環境）
第4回	幼児の発達理解（子どもの理解を深める発達観）
第5回	幼児の発達理解（子どもの体格と生理機能）
第6回	幼児の発達理解（運動機能の発達）
第7回	幼児の発達理解（心の発達と健康・社会性の発達など）
第8回	心の発達と社会的発達（運動あそびと社会性）
第9回	幼児のあそびの発達と健康（幼児の遊びとは何か・遊びの発達過程）
第10回	幼児の体格・運動能力の現状と問題（体格、体力の変遷）
第11回	幼児の生活スタイル（幼児の生活リズム・生活習慣）
第12回	幼児の体格・運動能力測定法と評価（体格・運動能力）
第13回	幼児の安全管理と安全教育、応急処置法（手当の順序、応急処置法）
第14回	運動体験を広げる体育行事（運動会など）、体育関連行事（園外保育など）
第15回	保育の計画と指導案 保育内容「健康」まとめ

事前学修	0.5時間	幼稚園教育要領（および要領解説）・保育所保育指針などに目を通し、乳幼児の「健康」について自分自身で考えまとめておく。
事後学修	0.5時間	幼稚園教育要領（および要領解説）・保育所保育指針などに目を通し、乳幼児の「健康」についてよくまとめておく。体格・運動能力測定法については自分で測定できるように復習しておく。
フィードバックの方法	翌週以降の配付資料内に記載、および連絡用Mailを用いて行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	35%	授業内および授業に関連した内容でのレポートを求める場合がある。

上記以外の試験・平常点評価	65%	授業中における質問、および15回目に授業内考査を行い、理解度を確認する。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育内容 健康 [第2版]	編集代表 春日晃章	(株) みらい	9784860154462	－
参考資料	幼稚園教育要領（文部科学省）、幼稚園教育要領解説（文部科学省）、保育所保育指針（厚生労働省）、保育所保育指針解説（厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省）			

科目名	保育内容演習（健康Ⅱ）			担当教員	西川 正晃
単位	1単位	講義区分	演習	ナンバリング	
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	講師（教諭含む）				
実務経験を生かした授業内容	実務経験を生かし、具体的な事例を通した授業内容に努め、より実践的に学びを深める。				
到達目標及びテーマ	子どもが健やかにのびのびと成長するためによい環境を構築することは保育者の切なる願いである。しかし子どもを取り巻く環境は厳しい状態にある。子どものもつ素晴らしい能力や可能性を保育者はどう支えていくべきか、また、子どもの生涯にわたって健康で安全で幸福な生活を送るために、乳幼児期ではどうかかわっていったらよいかを理解する。				
授業の概要	領域「健康」では、人間が生きていくためのベースである健康な生活の基礎をどう育てていくかを学ぶ。子どもの身体の発達や運動発達を理解したうえで、基本的生活習慣の習得や生活リズムの形成、食育、災害時の行動の仕方など、健康で安全な生活を送るために必要な体験とは何かを理解する。【デジタル技術利用 該当番号：①】				

授業計画	
第1回	オリエンテーション（教育要領改訂について）
第2回	子どもの心と体の健康
第3回	子どもの身体の発達と運動能力 ①子どもの身体の発達
第4回	子どもの身体の発達と運動能力 ②運動能力と動きの獲得
第5回	子どもの身体の発達と運動能力 ③安全の指導
第6回	領域「健康」 ①領域「健康」のねらいと内容
第7回	領域「健康」 ②領域「健康」の内容の取扱い
第8回	実際編 ①0～2歳児の生活と動き
第9回	実際編 ②0～2歳児の身辺自立・生活習慣の獲得
第10回	実際編 ③0～2歳児の遊び
第11回	実際編 ④3～5歳児の生活習慣の獲得
第12回	実際編 ⑤3～5歳児の運動遊びの実際
第13回	実際編 ⑥3～5歳児の運動遊び指導のポイント
第14回	安全への配慮
第15回	まとめ・保育者の役割 学習到達度確認試験を行う

事前学修	0.5時間	指定した教科書を読み解き、自分自身の考えをもつ
事後学修	0.5時間	毎回学習のまとめを行い、復習をする（授業時に回収）
フィードバックの方法	提出されたレポートについて、課題を明確にし、授業にて全体にコメントをし、理解を促す。学習到達度確認試験を行い、模範解答と解説を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	60%	授業内容の理解度と、自分の考えを論理的に記述
上記以外の試験・平常点評価	40%	学習到達度確認テストと、発表や学習意欲
補足事項		

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
演習 保育内容 「健康」		河邊貴子	建帛社	978-4-7679-5099-0	なし
参考資料	幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領				

科目名	保育内容演習（人間関係Ⅰ）			担当教員	川村 弘子	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1CCM504
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	幼稚園園長・幼稚園教諭・心の教室相談員・いじめ不登校対策専門員					
実務経験を生かした授業内容	保育園現場での経験を生かし、幼児教育・保育の意義と、子どもの発達や保育者の役割について講義する。					
到達目標及びテーマ	保育者の人間関係・保育者と子どもの人間関係・子ども同士の人間関係は、保育者の子ども観・保育観にかかわり、最終的には保育者のあり方が子どもの育ちを決定することを実践的視野に立って教授し、理解させる。					
授業の概要	幼稚園教育要領，保育所保育指針における領域「人間関係」，「他の人と親しみ，支え合って生活するために，自立心を育て，人とかわる力を養う」ことを目的として，実践的視野に立って講義を進める。同時に乳幼児期の発達の特徴を把握させる。教育・保育実践ビデオを見ながら，保育者の行動と子どもの行動の関係性について，実際に分析しながら理解させたい。 [デジタル技術利用 該当番号①]					

授業計画	
第1回	幼児教育・保育の基本
第2回	保育者とは何者か
第3回	幼稚園教育要領・保育所保育指針「人間関係」について
第4回	乳幼児期の発達と人とのかかわり
第5回	保育実践の実際について行動分析（ビデオや情報機器を活用）
第6回	事例検討 人間関係を視点として1
第7回	事例検討 人間関係を視点として2
第8回	事例検討 人間関係を視点として3
第9回	事例検討 これまでの事例検討からの指導案作成
第10回	事例実践：ビデオや情報機器を活用した行動分析「子どもの仲間関係」と模擬保育
第11回	事例検討 保育者の子どもの見方の変化（タブレットを活用した協議）
第12回	事例検討 保育者の子どもの見方の変化と子どもの変容
第13回	事例検討 子どもの変容にかかわる保育者の「身についている」行動
第14回	保育実践：ビデオによる行動分析「気になる行動」と模擬保育
第15回	まとめ

事前学修		授業後、次の授業に関する内容について説明し、関連する情報を収集をしたり、考えをまとめておく。
事後学修		授業で学んだことの整理、まとめ。必要に応じて課題を与え、次の授業に生かせるようにする。
フィードバックの方法	提出されたレポートにおける課題を明確にし、授業にて全体にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	1)毎時の授業内容や幼児教育・保育に関する資料を読んで、問題意識を持ってレポートする。
上記以外の試験・平常点評価	40%	1)小テストを一回実施。授業で取り扱った内容を理解しているかどうかで評価する。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
プリントを配布	なし	なし	なし	なし
参考資料	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）他 「事例で学ぶ領域人間関係」監修・無藤 隆 萌文書林 主体としての子どもが育つ保育内容「人間関係」監修・無藤 隆 編著・古賀松香 北大路書房			

科目名	保育内容演習（人間関係Ⅰ）			担当教員	五十嵐 紗織	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1CCM504
期待される学修成果						
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	教師					
実務経験を生かした授業内容	幼稚園での勤務経験を活かし、子どもの発達に応じた支援や適切な保育環境、保護者対応等について講義する。					
到達目標及びテーマ	保育者の人間関係・保育者と子どもの人間関係・子ども同士の人間関係は、保育者の子ども観・保育観にかかわり、最終的には保育者のあり方が子どもの育ちを決定することを実践的視野に立って教授し、理解させる。					
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「人間関係」、「他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とのかかわる力を養う」ことを目的として、実践的視野に立って講義を進める。同時に乳幼児期の発達の特徴を把握させる。教育・保育実践ビデオを見ながら、保育者の行動と子どもの行動の関係性について、実際に分析しながら理解させたい。[デジタル技術利用 該当番号：①]					

授業計画	
第1回	幼児教育・保育の基本
第2回	保育者とは何者か
第3回	幼稚園教育要領・保育所保育指針「人間関係」について
第4回	乳幼児期の発達と人とのかかわり
第5回	保育実践の実際について行動分析（ビデオや情報機器を活用）
第6回	事例検討 人間関係を視点として1
第7回	事例検討 人間関係を視点として2
第8回	事例検討 人間関係を視点として3
第9回	事例検討 これまでの事例検討からの指導案作成
第10回	事例実践 ビデオや情報機器を活用した行動分析「子どもの仲間関係」と模擬保育
第11回	事例検討 保育者の子どもの見方の変化（タブレットを活用した協議）
第12回	事例検討 保育者の子どもの見方の変化と子どもの変容
第13回	事例検討 子どもの変容にかかわる保育者の「身についている」行動
第14回	保育実践 ビデオによる行動分析「気になる行動」と模擬保育
第15回	まとめ

事前学修		授業内で指示された次回予告に基づいて関連する事柄の用語を調べ、教科書の該当箇所に目を通す。
事後学修		授業で学んだことや、グループで議論した内容をまとめる。その他、必要に応じて授業内で指示する。
フィードバックの方法	授業内での質疑応答や、適宜実施するリアクションペーパーにおける優れたコメントを紹介し、学びの共有に活かす。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		50%	領域「人間関係」に関する基本的な知識の深度及び事例検討における記述内容によって評価する。
上記以外の試験・平常点評価		50%	授業内で求めるリアクションシートの記載内容及び提出状況、グループワークへの参加度によって評価する。
補足事項			

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもと保育者でつくる人間関係－「わたし」から「わたしたち」へ－	横山真貴子編著	教育情報出版	978-4-909378-29-3	なし
参考資料	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）他 「モモ」、ミヒヤエル・エンデ (岩波書店) ISBN：978-4001141276			

科目名	保育内容演習（環境Ⅰ）			担当教員	水谷 亜由美	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2CCM506
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験を生かし、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価について、具体的事例を取り入れた演習を行う。					
到達目標及びテーマ	領域「環境」のねらいと内容を理解する。環境にかかわりながら生活し、遊ぶ子どもの育ちを支える保育者の役割について考え、子どもの成長・発達と環境についての関係性についての理解も深めていく。さらに、子どもを「主体」とする視点から、環境を構成する理論や方法を身に付ける。					
授業の概要	子どもは、自らの力をもって環境とかかわり成長発達する。「環境とかかわる力」は遊びや生活、周囲との関係の中でこそ育まれていく。保育者は、そのことを踏まえ、環境を構成し子どもの健やかな育ちを支え、保障していくことが重要となる。そこで、本講義では、様々な視点から子どもを取り巻く「環境」について学んでいく。 【デジタル技術利用 該当番号：①、④】					

授業計画	
第1回	幼稚園教育の基本と育みたい資質能力について
第2回	保育内容「環境」のねらいと内容について
第3回	領域「環境」の変遷と保育実践の動向
第4回	子どもの「環境とかかわる力」の発達を支えているもの
第5回	環境構成と領域「環境」
第6回	保育者の役割と領域「環境」
第7回	領域「環境」と実践上の留意点、情報機器の取り扱いについて
第8回	指導計画と領域「環境」
第9回	指導計画の作成1（子ども理解と指導案の作成について）
第10回	指導計画の作成2（環境構成と援助、情報機器と教材の活用について）
第11回	指導計画の作成3（評価について）
第12回	模擬保育とその振り返り1（子ども理解について）
第13回	模擬保育とその振り返り2（環境構成と援助について）
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校の学びについて
第15回	領域「環境」における幼児期の学びについて

事前学修		次の授業に関する課題を示すため、事前に調査・収集を行うこと。
事後学修		ワークシートに、その日の学修のポイントを明記しながら振り返る。
フィードバックの方法	レポートは、個別にコメントして返却するとともに、全体に総合評価を伝え、質問に応じる。模擬保育や演習は、計画段階で個別あるいはグループごとにコメントする。実践後は、評価を全体に伝えた上で、指導案にコメントを記述して個人の課題を明確に把握できるようにする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	40%	領域「環境」のねらいと内容を理解しているか、演習を通しての気づきや考察が述べられているかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価		60%	補足事項に記入
補足事項	指導案作成、模擬保育における保育の構想力 30% 演習やグループワークにおける意欲・関心・態度 20% 自己評価 10%		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい保育講座⑨ 保育内容「環境」	久保健太・高嶋景子・宮里暁美(編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09039-6	なし
幼稚園教育要領	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81422-2	なし
参考資料	『保育所保育指針』平成29年4月、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年4月 など			

科目名	保育内容演習（環境Ⅱ）			担当教員	水谷 亜由美	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2CCM507
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験を生かし、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価について、具体的事例を取り入れた演習を行う。					
到達目標及びテーマ	本講義においては、幼児期の保育を展開していく上でどのような保育環境が必要か、またそうした保育環境はどのようにすれば構成していけるのかについて考えていく。また、保育施設内の環境の大切さについても具体的に考え、理解することを目的とする。					
授業の概要	乳幼児期の子どもは、自ら環境を取捨選択する。発達段階に応じて自分の身近な環境にふれながら成長していく。その意味において、幼児の環境と成長は大きく関わっている。保育者などの身近な存在がどのような環境を与えていくと子どものよりよい成長につながるのかについて考えていく。乳幼児期の環境の内容について、テキスト、ビデオ等を活用し学修するとともに、環境構成の試行や模擬保育など演習を通して具体的に考えていく。 【デジタル技術利用 該当番号：①、④】					

授業計画	
第1回	「環境Ⅱ」についてのガイダンス、領域「環境」のねらいと内容について
第2回	「環境を通して行う」保育とは（その考え方と実践事例）
第3回	子どもの「環境とかかわる力」と絵本環境1（絵本環境のねらいと意義）
第4回	子どもの「環境とかかわる力」と絵本環境2（模擬保育：絵本環境の構成と評価）
第5回	子どもの「環境とかかわる力」とキャンバスマップ1（情報機器を活用したキャンバスマップ作成のねらいと意義）
第6回	子どもの「環境とかかわる力」とキャンバスマップ2（模擬保育：情報機器を活用したキャンバスマップの作成と評価）
第7回	子どもの「環境とかかわる力」の実際1（園環境の構造、見学の視点の整理）
第8回	子どもの「環境とかかわる力」の実際2（附属幼稚園見学からみとる環境の実際、ビデオ録画における留意点）
第9回	子どもの「環境とかかわる力」の実際3（園見学からみとった環境についての振り返りと評価、指導計画の構成）
第10回	子どもの「環境とかかわる力」と様々な行事1（園内外の行事の実際）
第11回	子どもの「環境とかかわる力」と様々な行事2（園内外の行事実施における留意点）
第12回	子どもの「環境とかかわる力」とアフォーダンス
第13回	領域「環境」と保育の実際1（環境構成の計画・準備等模擬保育の事前指導）
第14回	領域「環境」と保育の実際2（環境構成の試行を中心とした模擬保育の実施）
第15回	領域「環境」と保育の実際3（環境構成の評価）

事前学修	0.5時間	授業後、次の授業に関する事前学修についてその都度指示する。
事後学修	0.5時間	授業で学んだことの整理、まとめ。必要に応じて課題を与える。
フィードバックの方法	レポートは、個別にコメントを記入して返却するとともに、総合評価と解説を伝え、質問に応じる。絵本環境とキャンバスマップ、環境構成図は、授業内に全体的な評価を伝えた上で、課題返却時に個別にコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	20%	領域「環境」の理解に基づき遊びを分析しているか、演習での気づきや考察が述べられているかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	80%	補足事項に記入

補足事項	絵本環境、キャンパスマップ、環境構成の試行における保育の構想力、実践力、活用力 40％ 演習やグループワークにおける意欲・関心・態度 30％ 自己評価 10％
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい保育講座⑨ 保育内容「環境」	久保健太・高嶋景子・宮里暁美(編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09039-6	なし
幼稚園教育要領	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81422-2	なし
参考資料	『保育所保育指針』平成29年4月、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年4月 など			

科目名	保育内容演習（言葉Ⅰ）			担当教員	水谷 亜由美	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2CCM508
期待される学修成果						
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験を生かし、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価について、具体的事例を取り入れた演習を行う。					
到達目標及びテーマ	1. 乳児期から幼児期にかけての言葉の発達の基礎・基本となる事項についての理解を深める。 2. 乳幼児の言葉の発達に保育者としてどうかかわればいいのか、様々な指導方法について理解し実践力を養う。 3. 現代の子育て文化と保育の役割りについて多角的に捉える視点を学ぶ。 4. ことばが生み出されていく道筋とそこでの保育者の役割を学ぶ。					
授業の概要	授業では保育内容「領域 言葉」のねらいや意味を学び、乳児期から幼年期にかけての子どもの言語習得の過程、その発達についての検討を行いながら、ことばの獲得と人間形成とのかかわり、その後の読み書き能力との関係性についての認識を深め、保育にとって望ましい言語環境のあり方を探っていきたい。 【デジタル技術利用 該当番号：①、④】					

授業計画	
第1回	オリエンテーション 乳児のことばの発達授業の概要の説明。知的発達の芽生えとしての「首の座り」「人見知り」「指差し」について
第2回	乳幼児のことばの発達（1）話しことばの発達 一語文から二語文・三語文への発達について
第3回	乳幼児のことばの発達（2）幼児音、幼児語の特質と保育者のかかわり方について
第4回	子どもの社会認識とことばの発達 社会的な概念の獲得課程について具体的事例から学ぶ
第5回	子どもの虚構認識の発達 「物語＝虚構」の世界と現実世界の分化について
第6回	かな文字の指導 「かな文字」の読みと幼児の「かな文字」習得について
第7回	領域「言葉」と人間の成長、言葉の発達
第8回	領域「言葉」と言語環境・発達環境の重要性
第9回	野生児・孤立児と言語環境 「ホスピタリズム」「臨界期」について
第10回	言葉の発達と言語文化(1) 言葉遊びと幼児の言語発達、とくに「音節」認知についてと指導案の作成
第11回	言葉の発達と言語文化(2) 読み聞かせの模擬保育
第12回	読み言葉の発達と言語文化(3) 「読み聞かせ」と「ブックスタート」の取り組みと教材研究について
第13回	保育者の言葉・保育室の言葉 保育者と子どものやりとり、子どもの心を育てることばかけについて
第14回	ことばの環境としてのメディアの問題 テレビ視聴と乳幼児言葉の発達の問題について、読み聞かせを行うための情報機器の取り扱いについて
第15回	乳幼児の言葉の発達と現代の子育て文化についての討論とまとめ

事前学修		自分の幼児期を振り返り、まわりの大人とどうかかわり、どんな遊びや言葉あそびをしたかをまとめる。日頃から絵本を見たり読んだりし、その絵本のおもしろさや子どもと楽しむ方法について考える。
事後学修		授業全体を復習し、今後、実践現場に出ていくことを想定し、深めていきたい論点などをしっかりまとめる。
フィードバックの方法	小テストは模範解答を表示して、自己課題が把握できるようにする。毎回の授業のまとめとレポートは、個別にコメントするとともに、全員分のレポートをまとめたものを提示し、共有する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない

レポート	60%	領域「言葉」のねらいと内容が理解できているか、演習からの気づきと考察が述べられているかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	絵本ノート、授業後の振り返り、小テスト、演習の態度から、意欲と関心、理解度、表現力を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
プリント配布	なし	なし	なし	なし
参考資料	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）			

科目名	保育内容演習（言葉Ⅱ）			担当教員	水谷 亜由美
単位	1単位	講義区分	演習	ナンバリング	
期待される学修成果	子ども理解 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験を生かし、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価について、具体的事例を取り入れた演習を行う。				
到達目標及びテーマ	・乳幼児期の言葉の発達に必要な大人の役割、言語環境のあり方についての基礎・基本となる知識や技能を身につける。 ・声や身体を使って言葉による表現の楽しさや豊かさを味わうとともに、その技法や力を身につける。				
授業の概要	・絵本、ことば遊び、劇など、文化財を活用できる知識、技法、表現を学んでいく。 ・幼児教育の現場に即した、ことばの発達の指導力、表現力を磨く。 ・読み聞かせ、ことば遊び、劇や劇遊びの役割や意義、効果的な方法を演習形式で学んでいく授業である。また、自分の演技だけでなく、他者の演技や表現についても、的確に批判し評価できる見識もあわせて養っていきたい。 【デジタル技術利用 該当番号：①、④】				

授業計画	
第1回	オリエンテーション（授業の概要・演習への心構えについて）
第2回	ことば遊び（１）ことば遊びの資料の読み取り
第3回	ことば遊び（２）ことば遊びの具体例を調べる（情報機器等を活用して）
第4回	ことば遊び（３）ことば遊びについての教材活用の報告と実演（指導案の作成）
第5回	読み聞かせ（１）読み聞かせとことばの発達 読み聞かせにふさわしい絵本等の選定について
第6回	読み聞かせ（２）絵本・紙芝居について
第7回	読み聞かせ（３）読み聞かせの実演（その１）絵本の選定と練習
第8回	読み聞かせ（４）読み聞かせの実演（その２）模擬保育
第9回	劇遊び（１）劇遊び入門
第10回	劇遊び（２）劇遊びの方法と実践
第11回	劇遊び（３）劇遊びの実演
第12回	朗読劇（１）朗読劇入門「朗読劇について」
第13回	朗読劇（２）朗読劇のレッスン①
第14回	朗読劇（３）朗読劇のレッスン②（朗読劇における情報機器の活用について）
第15回	朗読劇（４）朗読劇の発表

事前学修	0.5時間	幼児期や実習で体験したことを振り返り、ことば遊び、読み聞かせ、劇遊びの種類や魅力について考える。図書館に赴き、児童文化財やことばを用いた遊びについて調べる。遊びの実践に向けて、必要なものを作成したり、練習したりする。
事後学修	0.5時間	授業での体験を振り返り、今後現場で実践することを想定し、課題をみつける。より遊びが充実するよう改善策を考察する。
フィードバックの方法	授業のまとめやレポートは、個別にコメントするとともに、全体に学びのポイントを整理して共有する。模擬保育の計画は、準備が深まるよう個別あるいはグループごとにコメントする。実践後は、全体に向けて評価を伝えると共に、自己課題が把握できるよう個別にコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない

レポート	60%	領域「言葉」の理解に基づき遊びを分析しているか、演習での気づきや考察が述べられているかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業に対する意欲・態度・関心と、指導案や模擬保育から保育の構想力を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）			

科目名	保育内容演習（表現Ⅰ）			担当教員	横井 志保	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1CCM510
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験から、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価など、現場での具体例を授業に反映させる。					
到達目標及びテーマ	①領域「表現」について、指針や要領からそのねらいと内容を理解する。②ねらいと内容から、どのような保育や保育者のかかわりが必要か考える。③領域「表現」を通して、保育の本質を理解し、子どもの最善の利益のために営まれる保育実践のための意欲や関心を高める。					
授業の概要	この授業では、事前のアサインメントから問題を考え、学生同士の主体的で対話的な学びを通して、深い学修を行う。一人ひとりが保育者をめざす意欲を高め、積極的に領域「表現」を探究していく。【デジタル技術利用 該当番号：①】					

授業計画	
第1回	幼稚園教育の基本と育みたい資質能力について
第2回	保育内容「表現」とは（ねらいと内容）
第3回	豊かな感性と表現を育む環境について
第4回	豊かな感性と表現を育む保育者について
第5回	保育内容「表現」の歴史的変遷について
第6回	子どもの存在と表現について
第7回	諸感覚を通しての感性と表現について
第8回	音・音楽に対する感性と表現について（情報機器と教材の活用）
第9回	造形に対する感性と表現について（情報機器と教材の活用）
第10回	子どもの感性と表現を大切にする保育実践の工夫（指導案の作成について）
第11回	子どもの感性と表現を大切にする保育実践の工夫（評価について）
第12回	模擬保育実施と振り返り 第1回目（音楽に対する感性と表現）
第13回	模擬保育実施と振り返り 第2回目（造形に対する感性と表現）
第14回	子どもの感性と表現を育む保育者について
第15回	保育内容「表現」の課題（様々な連携について）

事前学修		各回に示した内容をアサインメントとする。具体的にはその都度指示を行う。
事後学修		アサインメントに関連する資料や情報を収集する。
フィードバックの方法	・授業後の振り返りシートへのコメントの記入など、授業者への学習支援を丁寧に行う。・振り返りシートなどから見えてきた疑問や質問などについては、個別的是もちろん、必要であれば全体でも振り返るようにする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	自分自身の解釈や判断を活用し、統合して考えを構築しているかどうか評価。
上記以外の試験・平常点評価	60%	グループワークや授業態度からみる主体性や対話性の充実度で評価。自己評価。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新保育講座11保育内容「表現」	平田智久・小林紀子・砂上史子編	ミネルヴァ書房	978-4-623-05573-9	特になし
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	特になし
参考資料	保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			

科目名	保育内容演習（表現Ⅰ）			担当教員	西川 正晃	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1CCM510
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	保育現場での実践経験から、指導案の作成や模擬保育の実際とその評価など、現場での具体例を授業に反映させる。					
到達目標及びテーマ	①領域「表現」について、指針や要領からそのねらいと内容を理解する。②ねらいと内容から、どのような保育や保育者のかかわりが必要か考える。③領域「表現」を通して、保育の本質を理解し、子どもの最善の利益のために営まれる保育実践のための意欲や関心を高める。					
授業の概要	この授業では、事前のアサインメントから問題を考え、学生同士の主体的で対話的な学びを通して、深い学修を行う。一人ひとりが保育者をめざす意欲を高め、積極的に領域「表現」を探究していく。【デジタル技術利用 該当番号：①】					

授業計画	
第1回	幼稚園教育の基本と育みたい資質能力について
第2回	保育内容「表現」とは（ねらいと内容）
第3回	豊かな感性と表現を育む環境について
第4回	豊かな感性と表現を育む保育者について
第5回	保育内容「表現」の歴史的変遷について
第6回	子どもの存在と表現について
第7回	諸感覚を通しての感性と表現について
第8回	音・音楽に対する感性と表現について（情報機器と教材の活用）
第9回	造形に対する感性と表現について（情報機器と教材の活用）
第10回	子どもの感性と表現を大切にする保育実践の工夫（指導案の作成について）
第11回	子どもの感性と表現を大切にする保育実践の工夫（評価について）
第12回	模擬保育実施と振り返り 第1回目（音楽に対する感性と表現）
第13回	模擬保育実施と振り返り 第2回目（造形に対する感性と表現）
第14回	子どもの感性と表現を育む保育者について
第15回	保育内容「表現」の課題（様々な連携について）

事前学修		各回に示した内容をアサインメントとする。具体的にはその都度指示を行う。
事後学修		アサインメントに関連する資料や情報を収集する。
フィードバックの方法	・授業後の振り返りシートへのコメントの記入など、授業者への学習支援を丁寧に行う。・振り返りシートなどから見えてきた疑問や質問などについては、個別的是もちろん、必要であれば全体でも振り返るようにする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	自分自身の解釈や判断を活用し、統合して考えを構築しているかどうか評価。
上記以外の試験・平常点評価	60%	グループワークや授業態度からみる主体性や対話性の充実度で評価。自己評価。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新保育講座11保育内容「表現」	平田智久・小林紀子・砂上史子編	ミネルヴァ書房	978-4-623-05573-9	特になし
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	特になし
参考資料	保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			

科目名	保育内容演習（表現Ⅲ）			担当教員	早矢仕 晶子	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2CCM512
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教員（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	教育現場の経験を生かし、造形活動における保育者の役割について、幼児の表現の理解について講義演習する。					
到達目標及びテーマ	子どもの発達を表現（美術的分野を中心として）の領域から捉え、子どもの理解を深め保育内容について具体的に学び深めることができる。					
授業の概要	子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現できるような活動についての研究をおこなう。材料の選択、道具の取り扱い、活動場所の設定等、具体的に考え授業計画を立て模擬保育をおこなう。 [デジタル技術利用 該当番号 ③④]					

授業計画	
第1回	授業内容の説明 教科の目的と内容の理解
第2回	幼児の表現の発達－絵画表現について （情報機器と教材の活用）
第3回	幼児の表現の発達－立体表現について 目標：表現の発達から子どもを理解する （ビデオ視聴）
第4回	造形活動を計画する際に大切にしたいことについて、文献から学ぶ（教科書など）
第5回	人体について－大人と子どもの描きわけについて（人体バランスの理解）
第6回	教材研究－「子どもと楽しむ色遊び」 ワークショップの企画
第7回	教材研究－「子どもと楽しむ色遊び」 ワークショップの試作
第8回	教材研究－「子どもと楽しむ色遊び」 ワークショップの実施 子どもとの活動で何を考え、注意すれば良いのかを考える。
第9回	教材研究－「5歳児の描く活動」を計画する
第10回	教材研究－「5歳児の描く活動」の試作と教室環境、材料用具についての検討
第11回	素材演習－「身近な素材の活用」を計画する
第12回	素材演習－「身近な素材の活用」の試作1 材料の理解
第13回	素材演習－「身近な素材の活用」の試作2 環境構成、安全について
第14回	「身近な素材の活用」についての意見交流と模擬保育 1、前半
第15回	「身近な素材の活用」についての模擬保育 2、後半

事前学修		参考資料の予習。構想を練る。素材探し。指定用具の用意。
事後学修		幼児の表現について調べる。人体バランスについて考察を深める。「造形活動を計画する際に大切にしたいこと」について、文献を探し調べ考察する。模擬授業の改善と振り返り。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度（アイデア力、事前準備、教室の使用態度、保育者としての適応性）50%、提出物の充実度50%
補足事項	提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児造形の基礎 乳幼児の造 形表現と造形材料	編著樋口一成	萌文書林	978-4-89347-311-0	なし
参考資料	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			